

経営比較分析表

青森県 弘前市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	44.91	97.47	3,851

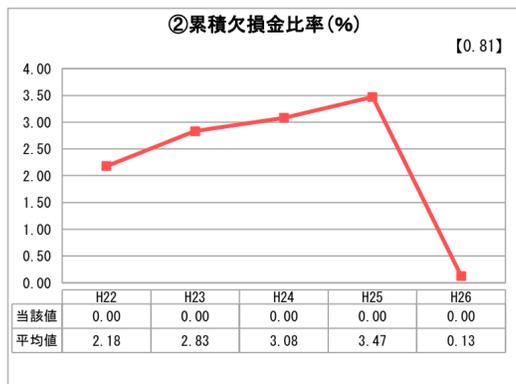
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
178,886	524.20	341.26
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
172,827	249.07	693.89

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

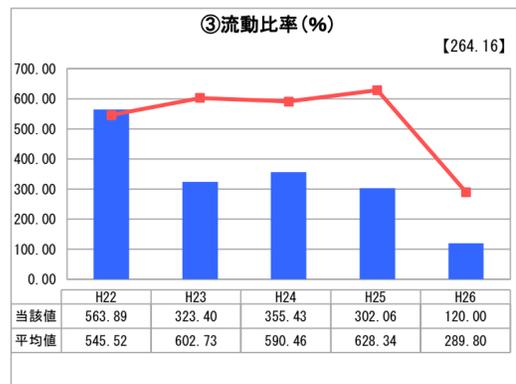
1. 経営の健全性・効率性



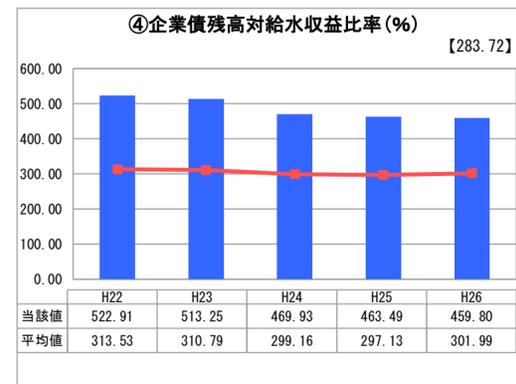
「経常損益」



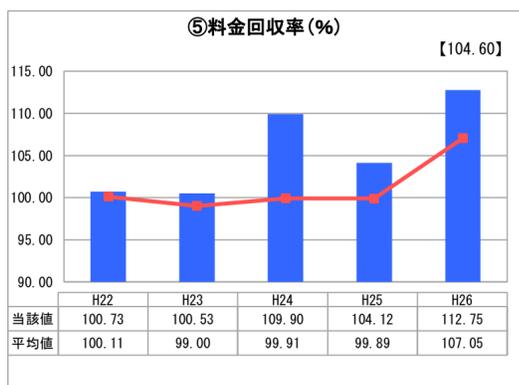
「累積欠損」



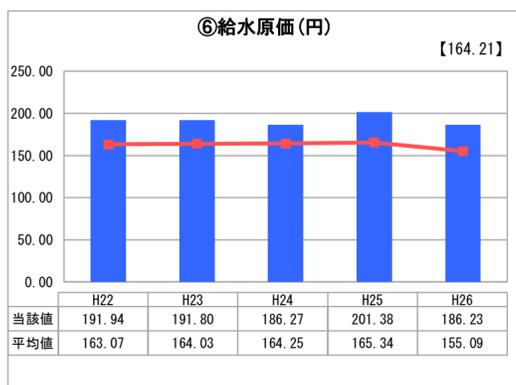
「支払能力」



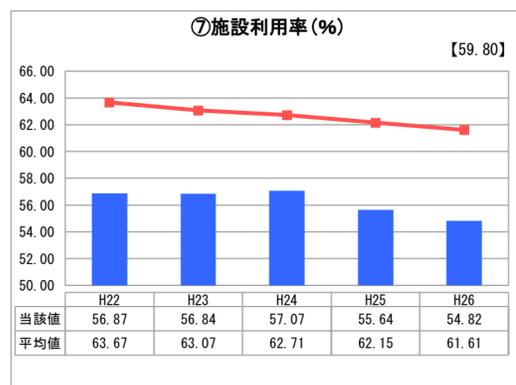
「債務残高」



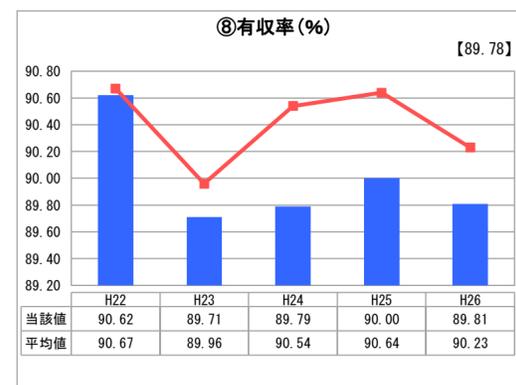
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

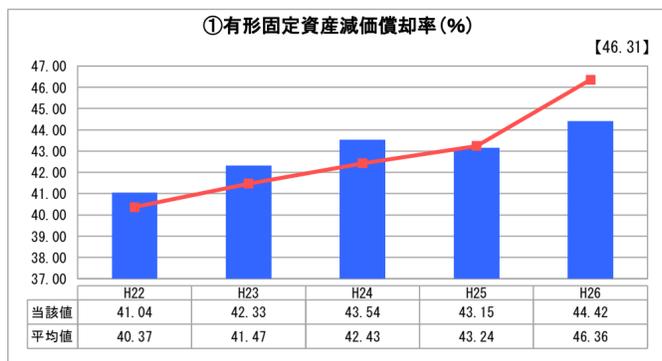


「施設の効率性」

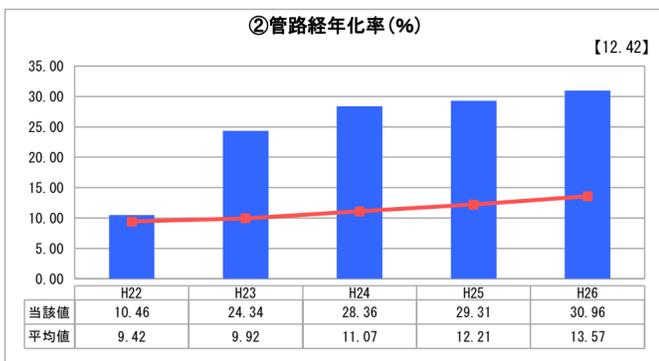


「供給した配水量の効率性」

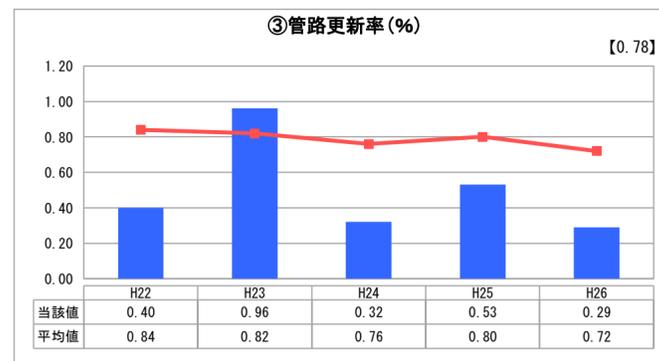
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

健全性に関しては、資本投入の原資を企業債の借入金に依存している割合は高いが、経常収支は安定しており概ね良好である。しかし、短期的な収益に関してはその比率が年々低下していることから、経費の削減に努め効率的な経営を目指す必要がある。

流動性に関しては、短期債務に対する支払能力に問題は無いが、予測困難な多額の資本投入に対する財源確保が生じた場合など中長期的な面ではやや不安定である。収納率の向上など流動資産の増加を目指す取組が必要である。

施設の効率性に関しては、施設利用率が年々低下していることから、将来的に使用しない過剰な施設を維持することの無いよう、更新時には的確な水需要予測と投資の規模に十分注意する必要がある。

2. 老朽化の状況について

当市は供給開始時期が昭和8年と比較的早く、類似団体と比較して老朽化が早く進んでいる。しかし、自己資本が乏しいため更新費用の財源を国の交付金や企業債などの外部資金に頼る割合が高く、財政面の理由から老朽施設の更新が思うように進んでいないのが現状である。

今後は安定した事業費の確保が課題であるが、まずは効率的に施設を更新していくためにも早期にアセットマネジメント計画を策定することが必要である。

全体総括

当市は、建設(更新)投資の財源を企業債に依存する割合が高く、一方で施設の老朽化が進んでいる。今後、老朽化に伴う更新費用(資本の再投入)の増加が予想されるのに対し、その原資となる減価償却費等の内部留保資金が減少傾向にあることから、今後企業債に依存する割合が更に高くなることが危惧される。

資本の回収と再投入のバランスを考慮した経営をするためには、早期にアセットマネジメント計画を策定し、更新施設の適切な規模の把握と長寿命化により費用の平準化を図ることが必要であり、健全な経営を維持するための最重要課題であると考えられる。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。